

IV 水辺に向かって立つ建築：中之島とその周辺

近世から、中之島は大阪の経済を支える中心としてその繁栄の中心にあった。江戸時代は全国の各藩の蔵屋敷が林立し、堂島浜にあった米会所は蔵屋敷に集められた日本中の米を取引するまさに経済の中心であった。近代に入ると、中之島は日本銀行大阪支店（1903年：辰野金吾）、中之島図書館（1904年：野口孫市、日高胖）、中央公会堂（1918年：岡田信一郎※実施設計は辰野金吾・片岡安）、旧大阪市役所（1921年：小川陽吉※実施設計は片岡安・市臨時建築部）など大阪を代表する建築物が建ちならんだ。

大阪市区改正設計（1919年～）、第一次大阪都市計画事業（1921年～）といった近代都市計画の萌芽期、中之島には淀屋橋・大江橋をはじめとする意匠豊かな近代橋梁群も配置され、中之島は大大阪のシビックセンターとしての偉観を見せるようになる。こうした動きに呼応して、中之島と川向かいの水辺には、ダイビル本館（1925年：渡辺節）、三井住友銀行大阪本店ビル（1930年：住友合資会社工作部）大阪朝日ビルディング（1931年：石川純一郎、竹中工務店）、大林組旧本店で今はレストランとなっているルポンドシエルビル（1926年：大林組 [小田島平吉、外観デザイン 平松英彦]）、現在は喫茶店となっている北浜レトロビルヂング（1912年：設計不詳）など、当時最先端の民間ビルが水辺に向かって建つモダンな姿を見せ始めるようになる。

水辺に向かって立つ建築の流れは周囲にもみられた。当時は江戸堀川に面していた江戸堀コダマビル〔旧兎玉竹次郎邸〕（1935年：岡本工務店）のように、現在はその大半が埋め立てられてしまったが、大阪都心を縦横に貫く堀川沿いに瀟洒な建築が水辺の景観をつくっていた。大阪港発祥の地であり、居留地がおかれた川口では、日本聖公会川口基督教会（1920年ウィリアム・ウイルソン）や、住友倉庫（1929年：住友合資会社工作部）などもその用途は異なるが同じ系譜に位置づけられるであろう。

現在、中之島では、リニューアルされた中央公会堂をはじめ、かつての面影を保ちつつ、京阪中之島線の整備に伴う再整備、中之島公園のリニューアルなどによって、大阪を代表する水辺景観が形成されている。順次、民間建築の建替えも進んでいるが、ダイビル本館の建替えでは、旧館の材料を再利用して外観・内観が復元され、中之島の新たなランドマークとして、水辺に向かって堂々と建ちながら、現代的な要請にも対応して再生を遂げている。

中之島では大規模な再開発も進んでおり、今後、ますます新しい時代の水都大阪を象徴する水辺建築が登場するだろう。（嘉名光市）



写真 中之島公園にある中央公会堂 (出所 VIEWS OF OSAKA 大大阪)

大阪最初の本格的オフィスだった初代の DNA を感じる
二代目ビル

13 ダイビル本館



旧 称：大阪ビルヂング
所在地：大阪市北区中之島 3-6-32
建設年：1925 年
構造・規模：RC 造 8 階、地下 1 階
設 計：渡辺節建築事務所

建替年：2013 年
構造・規模：
S 造、一部 SRC 造、RC 造
22 階、地下 2 階、塔屋 2 階
設 計：日建設計

近代的なビル群の中で、煉瓦の壁が趣のある存在感を放つ。1925 年の開業から 2009 年の取り壊しまで長く親しまれた中之島のシンボル「旧ダイビル本館」の外観を、新本館建設の際に復元したものだ。当時、大阪で最大の床面積を持つ貸オフィスビルとして開業した旧ダイビル本館は、構造や設備にも最新鋭の技術を駆使していた。大阪を代表する老舗デベロッパーの発祥地としての誇りが、巨大で整然とした壁面から伝わってくる。ロマネスク風の柱や中央玄関など、足元部分の細やかな装飾も味わい深い。ここで使われている兵庫県高砂産の黄竜山石は、旧ダイビル本館以降、特徴的な素材として大阪の近代建築にしばしば用いられるようになった。（倉方俊輔）

14 三井住友銀行大阪本店ビル

内部見学不可、平成27年4月まで改修工事中



威厳と親しみを併せ持つ大建築。旧住友本社と連系各社の本拠として、計画から最終的な完成まで約15年もの歳月をかけて完成した。当時正面を水辺に向けていたのは、多く見られた建ち方で、近い時期に建設されたダイビルやルポンドシエルビル、淀屋橋や大江橋といった橋梁群などと共に、堂々たる大阪の都市景観を構成している。兵庫県高砂産の黄竜山石を砕石、これにイタリア産大理石トラバーチンを砕いて混合し、鉄筋を入れて成形した擬石ブロックで覆われた外壁も、正面で印象深い一対の列柱も、遠目で見てこそ生き生きと表情を変える。(倉方俊輔)

旧 称：住友ビルディング
所在地：大阪市中央区北浜 4-6-5
建設年：【1期】1926年 【2期】1930年
構造・規模：RC造6階、地下1階
設 計：住友合資会社工作部

水都大阪を象徴するように水辺に向かって建つ
スパニッシュ様式のビル

15 ルポンドシエルビル [大林組旧本店]



浪花三大橋のひとつ、天神橋の南詰めに建つスクラッチタイルのシックな近代建築は、1892年に大阪で創業した大手建設会社、大林組の旧本店ビル。設計に際しては社内コンペを実施して、当時アメリカで流行していたスパニッシュ様式の案を採用した。2007年の耐震補強工事を経て、1973年に建てた超高層の本店ビルにあったフレンチ、「ルポンドシエル」が移転してきた。「ルポンドシエル」とは「天架ける橋」の意、天神橋にあやかった店名だ。(高岡伸一)

旧 称：大林組本店ビル
所在地：大阪市中央区北浜東 6-9
建設年：1926 年
構造・規模：RC 造 6 階、地下 1 階
設 計：大林組（小田島平吉、外観デザイン：平松英彦）

証券の街北浜に時代考証を元に再生された建築
英国ライフスタイルが感じられる

16 北浜レトロビルヂング



所在地：
大阪市中央区北浜1-1-26
建設年：1912年
構造・規模：
煉瓦造2階、地下1階
設 計：不詳

通りの向かいの大阪証券取引所と共に、江戸時代以来の金融街の記憶を引き継ぐ近代建築だが、両者のありようは対照的だ。1935年に完成した大阪証券取引所は、幾何学的なデザインを取り入れた鉄筋コンクリート造で、アメリカ流の合理精神が垣間見える。対するこの建物は煉瓦造2階建てで、1912年に株仲買商の商館として建設された。周囲のビルに埋まりそうな小ささの中に品の良い装飾を丹念に施して、イギリスをお手本に西洋建築を学び始めた日本の本流を感じさせる。建物は1997年から英国流の紅茶と菓子の店舗として用いられ、北浜に新たな人の流れを生み出した。第一次世界大戦前、アメリカに主導権が移り始める以前のイギリスの黄金期に、生き馬の目を抜く株取引に関連して作られた施設が見事、英国流の憩いの場として読み替えられた。(倉方俊輔)

西船場の街に馴染む
ヴォーリズゆかりの工務店が建てた元住宅

17 江戸堀コダマビル [旧児玉竹次郎邸]



旧 称：児玉竹次郎邸
所在地：
大阪市西区江戸堀 1-10-26
建設年：1935 年
構造・規模：RC 造 3 階（一部 4 階）、
地下 1 階
設 計：岡本工務店

靱公園のある西船場と呼ばれたエリアには、ウィリアム・メレル・ヴォーリズの設計で知られる赤レンガの大阪教会の他にも、規模の小さな近代建築が点在する。江戸堀川に接していた江戸堀コダマビルは、綿布商を営む児玉竹次郎の個人邸として 1935 年に建てられた。設計と工事を担当した岡本工務店はヴォーリズの作品を多く手がけたことから、デザインの随所にヴォーリズ譲りのスパニッシュスタイルが覗えるが、青海波の模様や寺社の肘木や垂木のような表現もみられ、和洋折衷で面白い。内部は伝統的な町家の構成であったが現在は改修され、本格的な音楽レッスン室を備えたテナントビルとして活用されている。（高岡伸一）

旧居留地に建てられたゴシック様式教会
レンガの積み方はイギリス式

18 日本聖公会川口基督教会

所在地：大阪市西区川口 1-3-8
建設年：1920年
構造・規模：鉄骨煉瓦造 2階
設計：ウィリアム・ウィルソン



川口教会が建つ川に囲まれた川口は、明治時代に大阪港が開港して設けられた居留地だったエリアで、各国の領事館や商館、邸宅などの洋館が並ぶ、モダンな街並みが広がっていた。川口教会は居留地の区画に建てられた聖テモテ教会を源流にもつ教会で、現在の教会堂は1920年に、アメリカ人建築家ウィリアム・ウィルソンによって設計された。聖堂はゴシック様式をもとにしたイギリス積みレンガ造。礼拝堂の天井は木造の小屋組を露出させたオープン・ルーフで、はさみのように交差するシザーズ・トラスが空間を特徴づけている。川口教会は1995年の阪神大震災によって被害を受けたが、熱心な信者などによって復旧工事が実現した。(高岡伸一)